

<株式会社エフエム東京 第 453 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 30 年 11 月 13 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（2 名）

横 森 美 奈 子 委員長 ロバート キャンベル 委員

◇欠席委員（4 名）

渡 辺 貞 夫 委員 内 館 牧 子 委員
秋 元 康 委員 川 上 未 映 子 委員

◇社側出席者（11 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
西 川 常勤監査役
村 上 常務取締役営業局長
森 田 執行役員編成制作局長
兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー
宮 野 編成制作局編成部長
若 杉 編成制作局制作部長
高 橋 編成制作局制作部 プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 18 分）

『江原啓之 おと語り』

2018 年 10 月 14 日（日） 22:00～22:25 JFN3 局ネット

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■日本民間放送連盟賞 TOKYO FM 制作 CM が最優秀賞を受賞

11月7日(水)、第66回民間放送全国大会が開催され、「平成30年日本民間放送連盟賞」において、TOKYO FM制作のラジオCMが、ラジオ部門第1種(20秒以内)で最優秀賞、ラジオCM第2種(21秒以上)で優秀賞を受賞し、CM制作部門のクリエイティブ力が高く評価されました。

さらに、番組部門では、TOKYO FM制作の2番組がラジオ教養番組部門、ラジオエンターテインメント番組部門で優秀賞を受賞いたしました。

【第1種(20秒以内)最優秀賞CM概要】

《CMタイトル》『3B』篇/日本音楽著作権協会/(20秒)

プロデューサー 中村由美(TOKYO FM)、コピー・演出 森田一成(ビッグフェイス)

出演 百瀬さつき(ガール座)、小野綾香(ガール座)

【第2種(21秒以上)優秀賞CM概要】

《CMタイトル》『だまし音』篇/キヤノンマーケティングジャパン 情報セキュリティシステム(60秒)

プロデューサー・ディレクター 山口景子(TOKYO FM)、コピー 佐藤延夫(トビラ)、

効果音 佐々木聖子(音ランド)、ミキサー 太田友基(音響ハウス)

＜民放連賞審査員の講評より抜粋＞

『3B』篇/日本音楽著作権協会/(20秒)

若い女性2人の何気ない会話。付き合っていない男の「3B」が「バイトをしないバンドマン」「ビッグになるまで待っててというバンドマン」「お金に興味ないというバンドマン」と知り、「絶対ヤダー」と答える女性。現代の若者らしい口調の会話で笑いを誘いつつ、押しつけがましくならないように音楽著作権の重要性を示した。音楽を無料で聞くのは当たり前と考える若いリスナーにお金は大切というメッセージをリアルに伝えている。

『だまし音』篇/キヤノンマーケティングジャパン 情報セキュリティシステム(60秒)

情報セキュリティシステムに関心を持ってもらうため、音を使った「騙され体験」を演出。雨の降る音が実は天ぷらを揚げる音だったり、カメラのシャッター音が実は巻き尺が戻る音だったりするのは想定範囲内かもしれないが、ナレーターの女性が合成音声だったことが最後に明かされる。ラジオの特性を生かした音による構成が見事。BtoB向けのサービスをうまく訴求し、ラジオCMの可能性をあらためて感じさせる。

＜第 453 回放送番組審議会議事録＞

【ラジオ教養番組部門 優秀賞受賞番組概要】

《番組タイトル》エフエム徳島・TOKYO FM 共同制作『鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画 歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の軌跡』

《放送日時》 2018 年 3 月 18 日(日)13:00～13:55 放送

《出演者》 出演：山根基世、古閑理、飯野雅彦、清水宏香、鳴門教育大学教授 頃安利秀（本人）、板東小学校校長 寺奥幹生（本人）、鳴門ドイツ館館長 森清治（本人）、鳴門市「第九」ブランド化推進室 小寺正浩（本人）、高橋敏夫（本人）＊春江さんの息子さん

《スタッフ》 プロデューサー：増山麗央（TOKYO FM） 今川泰志（エフエム徳島）

構成：北阪昌人 演出：黒川美沙子 演出補：伊藤慎太郎

【ラジオエンターテインメント番組部門 優秀賞受賞番組概要】

《番組タイトル》『Jet Stream 50th Anniversary Special』

《放送日時》 2017 年 7 月 3 日(月)23:00～24:55 放送

《出演者》 出演：城達也、大沢たかお、古澤巖、小沼ようすけ、関口シンゴ、BIGYUKI

《スタッフ》 プロデューサー：高橋智彦（TOKYO FM）

演出：氏家徹、林久美 演出補助：山下未央、宮本貴文、下條健太郎

＜民放連賞審査員の講評より抜粋＞

『鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画 歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の軌跡』

1918 年に第 1 次大戦のドイツ人捕虜によってアジア初の「第九」が現在の鳴門市で演奏されてから 100 年。史実やインタビューに基づき、ドキュメンタリーとドラマを組み合わせ、東京から転校してきた少年と実在の女性・高橋春枝さんを中心に今と昔を紐解く。

地元の歴史を踏まえ、鳴門市の子どもたちが「第九」を奏で続けることで何を学び、何を得ようとしているのかを通して、平和の尊さを伝える良作である。

『Jet Stream 50th Anniversary Special』

2017 年 7 月 3 日に放送開始から 50 年を迎えた「JET STREAM」。歴代のパーソナリティの音源や、番組のファンであった手塚治虫氏のコメントなどとともに世界の移ろいを特別番組で振り返った。スタジオからの生演奏も交え、音楽と世界を旅することの魅力を届けた。

音楽のかけ方やナレーションなどが繊細で丁寧な演出された番組。50 年の間に変化した日本人の海外への想いや旅情も表現し、聞き手を魅了させる。

■朝ワイド番組『クロノス』が TOKYO FM Ginza Sony Park Studio から初の公開生放送

10 月度聴取率調査期間中の 10 月 15 日(月)～19 日(木)、朝ワイド番組『クロノス』を TOKYO FM Ginza Sony Park Studio から、初の公開生放送でお届けしました。アーティストの生ライブや、中西哲生のエクササイズ講座などを開催し、早朝の放送にも関わらず通勤前のリスナーが連日延べ 300 名ほど集まり盛況に終わりました。これもリスナーとのタッチポイント強化の一環として、番組を軸にしたコミュニティ形成の輪を今後も拡大して参ります。



▲放送終了後にリスナーと集合写真



▲中西哲生のエクササイズ講座



▲放送の様子

■東京タワーから 3 ワイド番組が公開生放送

TOKYO FM 日本酒造組合中央会 presents 本格焼酎&泡盛の日 SPECIAL DAY ～日本の國酒、本格焼酎・泡盛で乾杯！～

11 月 1 日は「本格焼酎・泡盛の日」。「本格焼酎&泡盛の日 SPECIAL DAY ～日本の國酒、本格焼酎・泡盛で乾杯！～」と題したワンデー企画を今年も同日で実施。『高橋みなみのこれから何する?』、『シンクロのシティ』、『Skyrocket Company』の 3 番組を、東京タワー 1F エントランス前特設会場から公開生放送。

『高橋みなみのこれから何する?』では、20 代女性にも楽しめる焼酎泡盛トークを展開。ハイライトとして、1メートル 80 センチの焼酎タワーに、ゲストや日本酒造組合中央会とともに新酒を注ぎ、「焼酎の日」を祝うセレモニーも。

続いて『シンクロのシティ』は「今夜、誰と乾杯したいですか?」をテーマに実施。お酒を通じた「人」とのコミュニケーション、またその人となりが見えたことで、温かみのある放送になりました。

『Skyrocket Company』ではゲストライブを実施（関取花）。会場には 150 人のファンが集まり、昨年につき、東京タワーというロケーションで当社ワイ

ド番組のコミュニティシーンが可視化され、営業局と協働のもとクライアントニーズとも合致した ワンデー企画として盛況に放送が展開できました。



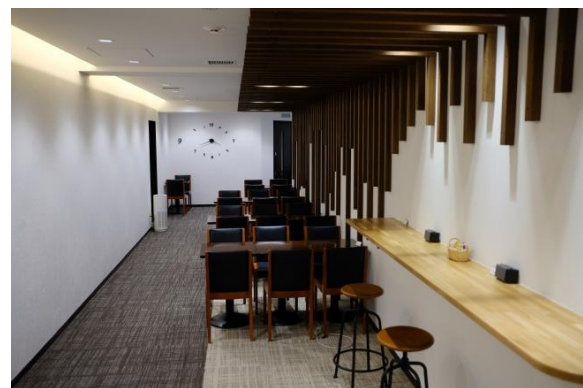
▲『高橋みなみの「これから、何する?」焼酎タワーでのフォトセッション ▲『Skyrocket Company』来場者全員での乾杯

■FM サウンズ新スタジオオープン

TOKYO FM のグループのエフエムサウンズが運営する虎ノ門スタジオの移転に伴い、平河町スタジオが新しくオープンとなりました。多様化する音声収録のニーズに応じて 11月 12(月)より全 5 杯のスタジオが稼働しています。8 人まで収録可能で、アフレコ、小編成の生演奏収録、撮影にも対応するスペックをそなえたスタジオや、コンパクトにコストパフォーマンスを優先させたスタジオ、また各放送局の生放送に対応が可能なスタジオなど、後もより幅広い顧客のニーズにお応えして参ります。



▲1ST ブースは 8名収録可。アフレコ、小編成の演奏にも対応



▲デジタル波形をイメージしたロビー

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○タッチポイント強化で Ginza Sony Park Studio からの公開生放送はとても良い取り組みだと思う。ぜひ、聴取率期間にこだわらず今後も続けてほしい。ライブを行ったようだが、ライブアーティストは、朝の時間帯に合う・合わないがあると思うので、そこは吟味して欲しいと思う。

○東京タワーのイベントはクローズドだったのか？振る舞われたのは焼酎だけだったのか？

■東京タワーエントランス前の広場で開催の入場自由で誰でも入ることができるイベントだ。生放送しながら呼びかけたので、人が次第に集まり、会場がいい雰囲気になっていたと思う。この日が焼酎と泡盛の日なので、焼酎と泡盛の試飲やきき当てなどを行った。

○聴取率について前回、平日午前が課題だったと記憶しているが、今回の聴取率の結果はどうだったのか。

■8 月度は平日に特に面積を占めるワイド番組が数字を下げたと報告したが、10 月度の結果は回復傾向にある。コアターゲットとしている M1F1 層では、2 期ぶりに単独首位となった。前回課題だった、平日ワイド番組の数字が回復した。40 代男性では前回の倍ほどの数字となっている。弊社はもともとリーチ（到達人数）に強く、聴取分数に課題があるが、今回は分数も大きく伸ばす結果となった。また、10 月の改編で夕方のワイド番組『Skyrocket Company』を 1 時間ほど時間拡大したが、その結果が顕著に表れ、なかなか数字の出なかった 19 時台に数字を獲得したのも特徴となっている。

○今後この回復傾向をどう維持していくのか。

■ラジオは 2 ヶ月に 1 度、聴取率調査期間を設けており、局をあげてプレゼントを出したり、ゲストを豪華にするなど、特別な放送をする傾向にある。今回 10 月の調査も、それなりに工夫を加えた放送ではあったが、日常の延長線上でどう聴かせるかということにより拘った。前回、数字の良くなかった 8 月度から会議を重ねて、客観的なレビューをフィードバックしながら話し合った。ラジオは習慣性のあるメディアなので、日々の放送から心がけていきたい。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『江原啓之 おと語り』

【放送日時】 2018年10月14日（日） 22:00～22:30 全国38局ネット

【番組概要】

本日もご試聴いただくのは、10月14日（日）に放送した、『江原啓之 おと語り』のダイジェストです。

この番組は、いつの時代でも、人生に前向きになる力を与えてくれるのは、誰かが発してくれた「心のこもったことば」であるということテーマに掲げ、言葉の持つ力を「ことたま」という表現で伝え続けているスピリチュアリストの江原啓之氏が、現代社会でさまざまな悩みに直面している人たちに温かい“ことば”を届けるプログラムです。番組へは、時に深刻なものをはじめとした様々な悩みがメールで寄せられています。共感を得る声も多く、TOKYO FM のニュースメディア、「TFM+」への記事化では、毎週高いアクセス数となっているのが特徴です（2018年10月度TFM+記事配信356本中のアクセス上位10本のうち4本が『江原啓之 おと語り』）。

ご視聴いただく10月14日の放送回は、いじめ・引きこもり・不登校についての相談メールを取り上げた回です。時代の変化の中でより複雑化し、深刻度が増しているとされる、子供の悩み、そして子を持つ親の悩みに江原啓之氏が答えてゆきます。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○安定の江原節。エンディングの「しゃんしゃん」という鈴の音の演出など、全体的にユーモアがあって良かった。陰鬱な重い雰囲気的人生相談にならず、軽快な切り返しだったのも良かった。

○疑問だったのが、途中で出てきた中年の男性は何者かということ。アシスタントなのか、天の声なのか、想像しながら聴いていたが、途中からそういう訳でもないような気がして、結局最後まで分からなかった。彼にきちんとした役割、アイデンティティを持たせてそれを知らせた方がいいのではないかと感じた。また、江原氏に対して「いいアドバイスですね」とコメントして、番組を締めってしまうような発言もあり、流れを切ってしまう意味でも、せつかくのアドバイスを軽くしてしまう意味でも、いらぬのではないかと感じた。リスナーから彼は誰なのかという問い合わせはないのか。

■構成作家である。リスナーからは時々問い合わせがあることもある。名前を呼ばれる回も時々あるので、毎回聴いている方は、彼の役割を認識していると思う。初めて聴いた方は疑問に思うかもしれない。

■この構成作家は、歴も長く、ラジオのつくりを良く理解していて、江原氏も信頼しており、合いの手が欲しい時などもあるので、声をかけてもらうようにしている。編集の手法はもう少し工夫していいかもしれない。

○江原氏本人がメールを読み上げ進行もしているので、この構成作家の役割が不鮮明。役割分担などを考えた方が良いのかもしれない。

○「減点法」「孤独感」など、江原氏のアドバイスはとてもいいと思うが、一方で、浮遊感がないというか、ラジオっぽい上手さを感じさせてしまうため、スピリチュアルな部分が欠けてしまうのではと思った。しかし、多くのリスナーには届いているのだと思う。

○江原氏は女性誌の連載などでスピリチュアルな発言を見かけることが多いが、この番組からは、スピリチュアルとは違った別の一面を感じた。とても温かみがあり、万人向けの内容だと思う。アドバイスの内容もとても本質的で、かつ温かく、この番組に勇気づけられている人は多いのではと感じた。

○私も昔、学生の時に行き詰まったことがあったが、親に言うとなかなか伝わ

らない。そういう時に、ここまではっきり「そんなのどうってことない。行くの辞めちゃってもいいよ」と言ってくれる人はあまりいないが、とても貴重。好感を持って聴いた。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

11月24日(土) 7:00~7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、12月4日(火)に開催することを決めた。